

私たちの地層処分問題

——18年ウォッチして見えてきたこと

2016.7.26

第3回原子力委員会放射性廃棄物専門部会
地層処分問題研究グループ 志津里 公子

<http://www.geodispo.org/>

地層処分問題グループの発足と活動

1998年	2000年レポートの批判的検討をスタート
2000年	検討結果をまとめレポートを公表
2000年10月	公開討論会を行いその記録をまとめ公表
2002年	資源エネルギー庁主催、共同企画によるシンポジウム
2003年 7月	再処理政策、地層処分をテーマにワークショップを主催
2009年以降	資源エネルギー庁主催の双方向シンポジウムにパネリストや企画で協力

詳しい活動の履歴や出版物については最後のページに記述

はじめに

・国及び NUMO などの活動について

最終処分法制定後スケジュール通りに進んでいないということは、従来の原子力政策や立地に比べて慎重に進めていることの現れであるとも考えられる。このことは、合意形成が重要だということが理解されてきているものと評価している。しかし、処分場が決まらない期間にもっと信頼を得られるようなことが、原子力全般において行われる必要がある。

その一環として、意見交換の場が以前よりは増えてきたのは良いことでそれを継続し増やしていくことは必須と考える。

資源エネルギー庁の活動

資源エネルギー庁、NUMO の広報活動について

最近行われた全国シンポジウム（第1弾から第3弾まで）

シンポジウムというよりも大規模な説明会という印象を受ける。登壇者がエネ庁、NUMO、JAEA、WGの専門家では多様な意見などありえず一方的に「ご理解」を求めるもの。会場からの意見を聞く時間は設けているもののその扱いは形式的。どうしても上から目線になってしまうので企画段階から考え直すことが必要なのでは

ないか？

自治体向け説明会については公開を原則とするべきで現在のやり方では人々からの信頼を損なう結果になっている。

地層処分技術 WG について

科学的有望地の検討にあたりまとめられた中間報告についての意見募集は専門家のみに限定されたのは問題である。一般の人たちに対する説明会や意見募集が行われるべきであった。国と専門家のブラックボックスの中で科学的有望地の基準が決められたような印象を与えることになる。残念ながら国のみならず専門家への信頼も揺らいでいる現状をもっと自覚して対応してほしい。

NUMO や JAEA などの技術報告会について

報告会は、無難に進捗しているということを第一としているためか、通常の科学や技術の研究発表に比べて、内容・プレゼンテーションとも淡々としていて、困難を感じている課題の緊張感や、部分的にでもそれをクリアしたことの達成感などが感じられない。幅広い分野の人間が関係しているのに、これでは自分の専門以外の部分はつつがなく進んでいるというような漫然とした安心感を生んでしまい、油断につながるのではないかという危惧も抱いている。

現在の課題を示し、うまくいけば安全にできるが、もし悪い状況が重なった場合どの程度の被害が生じるのかを示す方が信頼につながる。

いずれにせよこの問題では、いわゆるトランスサイエンスの領域の部分が大きいので今後さらに社会において議論されることが必要であるが、現在の方向性は逆に向いている。

原子力委員会に期待すること

高レベル放射性廃棄物のみならず、低レベル放射性廃棄物、研究所等廃棄物、ひいては福島原発事故によって生じたサイト内外の廃棄物が存在している。それらの縦割り行政を見直し総合的に検討し整えなおすことができるのは原子力委員会において他にない。国民の目線に立って一般の関係省庁や機関に対してイニシアティブをとっていただくことを強く期待する。

地層処分問題研究グループ

主な活動履歴

2015年

- [パンフレット「埋め捨てにしているの？原発のゴミ」改訂版](#)
(2015年8月)

2010年

- [シンポジウム「どうする高レベル放射性廃棄物\(特設サイト\)」](#)
2010年2月～3月
- [論文「高レベル放射性廃棄物の地層処分問題」](#)(pdf) 岩波『科学』2007年11月号
- [パンフレット「埋め捨てにしているの？原発のゴミ」改訂版](#)
2007年2月刊

2007年

- [原子力長計策定会議「核燃料サイクル政策の審議についての要望」](#)(pdf) 2004年10月
- [「長計策定会議政策評価視点『環境適合性』について」](#)(pdf)
2004年10月
- [「核燃料サイクルのコスト評価について」](#)(pdf) 2004年9月

2003年

- [ワークショップ「本音で語る原子力政策 Part II ー地層処分を考える」](#)(12月6日 於日本教育会館)
- [ワークショップ「本音で語る原子力政策 Part I ーどうする再処理」](#)(7月12日)
- [高レベル放射性廃棄物の処分地の公募開始にあたって](#) 2003年2月

2002年

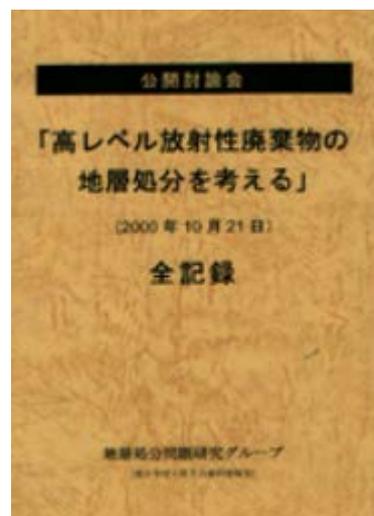
- [パンフレット「埋め捨てにしているの？原発のゴミ」](#) 2002年9月刊
- [公開討論「どうする高レベル放射性廃棄物」](#)(原子力資料情報室サイト) ([資源エネルギー庁サイト](#)) 2002年9月8日
- [原子力安全委「概要調査地区選定段階における環境要件の考え方について」への要望書](#) 2002年7月11日

2001年まで

- [論文「高レベル放射性廃棄物の地層処分はできるか I」](#) 岩波『科学』2000年12月号
- [論文「高レベル放射性廃棄物の地層処分はできるか II」](#) 岩波『科学』2001年3月号
- [書籍「公開討論会『高レベル放射性廃棄物の地層処分を考える』全記録」](#)(原子力資料情報室サイト) 2001年8月刊
- [書籍「『高レベル放射性廃棄物地層処分の技術的信頼性』批判」](#)(原子力資料情報室サイト) 2000年7月刊
- [公開討論会「高レベル放射性廃棄物の地層処分を考える\(原子力資料情報室サイト\)」](#) 2000年10月21日
- [検討報告会「地層処分の技術的信頼性は示されていない！」](#)(原子力資料情報室サイト) 2000年7月20日



埋め捨てが難しく、後始末が困難な「高レベル放射性廃棄物」。このゴミを地下深く埋めるために何をすべきか？ いま多くの人がこの問題を考えて欲しいのです。



.....